

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

11月上旬「夢つなぐ長寿のかがやき 富山から」をテーマに開催された「ねんりんピック富山2018・ソフトボール交流大会」に、長野県ソフトボール協

会副会長の山村耕児さん(松本市)・副理事長の中山義房さん(松川村)・副記録長の曾根原葉子さん(池田町)と審判派遣要請された私の4名で富山市を訪ねる。厚生省創設50周年を記念して昭和63年兵庫県で開催され、今年31回を数える全国健康福祉祭。60歳以上を中心に、あらゆる世代の人達が楽しみ、交流できる健康と福祉の総合的な祭典だ。

種目。ふれあいスポーツ交流は、太極拳・ダンススポーツ・ボウリングなど12種目。文化交流大会は、囲碁・将棋・俳句・健康マージャンなど5種目。富山県全域での開催で地域の

戦を担当する事ができた。初めての全国大会レベルの大会だったが、地元スタッフの協力で2日間の大会を堪能する事ができた。さすが各県代表チーム、60歳以上を感じさせな

く、選手には、良き想い出になった大会だと信じた。9年後には、長野県で国民体育大会と全国障がい者スポーツ大会が内々定されている。大会での選手の活躍へ

イベント、文化イベントも多くの会場で開催、簡易アートの数やスタッフ数の多さに驚く。長野国体などでも、長野オリンピックやパラリンピックで

培った取り組みを展開した盛り上げに期待しなくてはと強く感じた。大会でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

イベント開催の準備は、地域全体の早期の取り組みが大切と実感する

熱気が伝わってくる。ソフトボールには、地区予選を勝ち抜いた全国から66チーム968名が参加し熱戦が繰り広げられた。球審として富山県代表と北海道代表の対戦、香川県代表と山形県代表の対戦を担当する事ができた。初めての全国大会レベルの大会審判員は、第一種資格所持者が審判に当たるため、地元審判員の確保は大変だった。一方で高齢審判員が目立ったが、事前準備が万全で大きな問題も無



「おもてなしコーナー」の片づけで活躍するボランティアの姿は富山をより良い思い出の地とした